

# 酒田・飽海大豆情報

## 第2号

令和3年6月10日

### 播種作業の遅れへの対応について!

酒田農業技術普及課

TEL 22-6521

FAX 22-6522

## これから播種する場合は播種量を2~3割増やして!

6月10日を過ぎて播種する場合は、生育量を確保するために播種量を増やす必要があります。

また、まもなく梅雨入りすることを想定し、明渠の手直しを行うなど、排水対策を徹底しましょう!

### I ネキリムシ被害に注意!

今のところ被害は確認されていませんが、成虫は広葉雑草に産卵するので、圃場周辺の除草を徹底するとともに、被害が見られるときは薬剤防除を実施してください(本葉2葉まで)。

### II 中耕培土の適期 (~6/10播種)

播種の遅れから、全般に中耕培土の適期も遅くなると見込まれます。品質・収量を左右する必須の作業です。適期を見極めて、確実に実施してください。平年並に播種した圃場の適期は以下のとおりです。

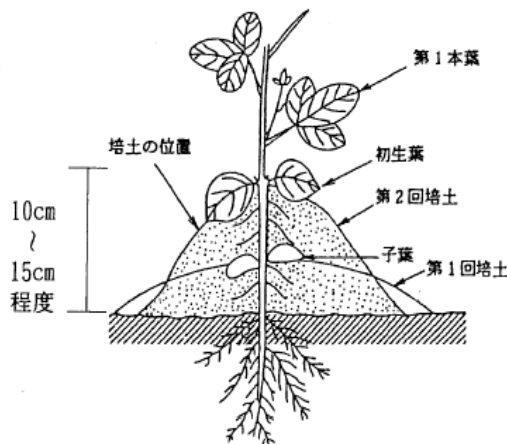
◎1回目の培土(3葉期)6月15日~25日頃

◎2回目の培土(6~7葉期)7月5日~20日頃

※開花(7/下~8/上頃)1週間前までに終わらしましょう。

※株元の培土部分が凹状になると水が溜まり立枯性病害が発生しやすくなるので、必ず凸状にしてください。

※追肥を行う場合は2回目の培土の時期に合わせて、「LPコート70」(緩効性)を20kg(N成分8kg)/10a、または「尿素」(速効性)を10kg(N成分4kg)/10aを全面散布し、その後培土を実施します。



### III 中耕培土の効果

培土部分の根域拡大

養分吸収促進

主茎の支持

倒伏軽減

畦間が排水溝に

停滞水排水



除草剤の抑草期間(30~40日後)後の雑草発生を抑える

# IV 発生草種に応じた除草剤の使用

## この雑草に注意！

最近多い大豆畑の

難防除雑草



イヌホオズキ



ホソアオゲイトウ



ツユクサ

### ① 広葉雑草が多いほ場用の除草剤(大豆生育期に登録のある主な除草剤)

除草剤名 (使用回数)	適用 雑草名	10a 当り使用量		使用時期	留意点
		薬量	希釈水量		
大豆 バサグラン液 剤(ナトリウム 塩)  (1回)	1年生 雑草 (イネ 科を除 く)	100 ～ 150ml	100ℓ	大豆の2葉期～開花前(雑 草の生育初期～6葉期、収 穫45日前まで)	※雑草茎葉散布または全面散布 ・イネ科雑草には効果がない ・イヌホオズキ・ツユクサ・シロザには効 果が低い
		300 ～ 500ml		大豆の生育期(雑草の生育 初期～6葉期、収穫45日前 まで)	※畦間雑草茎葉散布
ロロックス ※非選択性 (1回)	1年生 雑草	100 ～ 200g	70～150ℓ	大豆の本葉3葉期以降、雑 草生育期(収穫30日前ま で)	※雑草茎葉兼土壌散布(畦間・株間処 理) ※薬害注意 ・大豆本葉にかからないよう専用ノズ ルで株元に散布 ・イネ科雑草・ツユクサには効果が低い
バスタ液剤 ※非選択性 (3回以内)		300 ～ 500ml		100～150 ℓ	雑草生育期、畦間処理。収 穫28日前まで(大豆5葉期 以降は株間処理も可能)

⇒非選択性除草剤は大豆の葉にかかると葉の褐変や枯死などの薬害が発生します。

広葉雑草に効果のある除草剤では、大豆にかからないように畦間・株間に散布するものがあります。散布者が責任を持ってきちんと確かめましょう。

☆ 散布時に雑草が大きいと、残草しやすくなります。

残草は、実がつく前にはほ場外へ排出しましょう。



### ② イネ科雑草が多いほ場用の除草剤(大豆生育期に登録のある主な除草剤)

除草剤名 (使用回数)	適用 雑草名	10a 当り使用量		使用時期	留意点
		薬量	希釈水量		
ワンサイドP 乳剤(1回)	1年生 イネ科 雑草	100ml	25～100ℓ	雑草生育期(イネ科雑 草の5～8葉期、収穫 60日前まで)	・雑草茎葉散布又は全面散布 ・スズメノカタビラには効果がない ・遅効性で、イネ科雑草の枯死まで10日～ 3週間程度かかる場合がある
ポルト フロアブル (1回)		200～ 300ml		雑草生育期(イネ科雑 草の3～10葉期、収 穫30日前まで)	・雑草茎葉散布または全面散布 ・スズメノカタビラには効果がない ・イネ科雑草の枯死まで7日程度を要する

☆ 水稲など、周辺の作物へ飛散しないよう風向・風速に十分に留意して散布しましょう。



暑い日が続くので、熱中症に十分注意しましょう！

自身と周囲に気を配り、農作業事故防止に留意してください。